

【 様式 1 - 1 】

# 標茶町 長寿命化修繕計画

平成 25 年 3 月

標茶町 建設課

# 1. 長寿命化修繕計画策定の背景・目的

## 1) 背景

標茶町が管理する道路橋は、現在、104 橋（鋼橋 61 橋、コンクリート橋 43 橋）あり、このうち建設後 50 年を経過する高齢化橋梁は、1 橋で全体の約 1%となっている。

20 年後には、高齢化橋梁の割合が全体の約 50%を占め、急速に増大していく。

今後は、増大が見込まれる橋梁の修繕・架替えに要する経費に対し、可能な限りのコスト縮減への取り組みが不可欠である。

標茶町における建設後50年以上の橋梁数の推移（全104橋）

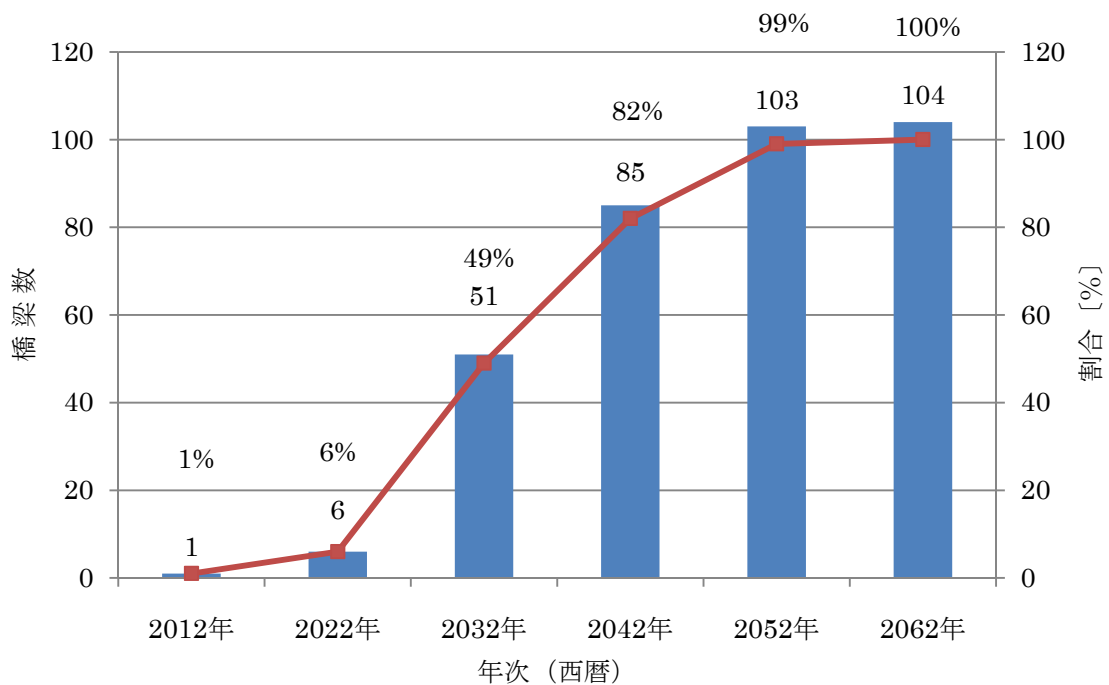


図-1 標茶町における建設後 50 年以上の橋梁数の推移

## 2) 目的

今後の目的としては、高齢化する橋梁の増大に対し、地域の道路網の安全性、信頼性を確保しつつ、これまでの事後保全的な対応から計画的かつ予防的な対応に転換を図り、長寿命化によるコスト縮減を図る。

また、橋梁点検及び長寿命化修繕計画の方針、修繕優先順位決定の考え方等を体系的に整理し、計画的管理を導入することで、必要予算の平準化を図り、将来の大きな財政的負担を緩和させる。

## 2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

長寿命化修繕計画の対象とする橋梁は、標茶町が管理する全 104 橋を対象とします。

	1 級町道	2 級町道	その他町道	合 計
全管理橋梁数	22	23	59	104
うち計画策定対象橋梁数	22	23	59	104
うち H24 年度計画策定橋梁数	22	23	59	104

## 3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

### 1) 健全度の把握の基本的な方針

管理橋梁を対象とした定期点検を『道路橋に関する基礎データ収集要領（案）』に基づいて行い、各橋梁の損傷状況を把握するとともに、道路機能を阻害する損傷、第三者被害を及ぼす可能性のある損傷を早期に把握する。

### 2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理として、パトロール、清掃などの実施を行う。

## 4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

基本的な方針は、以下とする。

- ・ 橋梁のおかれた環境条件等から損傷に対する事前予測や劣化予測を行い、予防的な修繕等の実施を徹底することにより、修繕・架替えに係る事業費の大規模化及び高コスト化を回避し、トータルコストの縮減を図る。
- ・ 損傷が発生してから対応する事後保全型の管理から、劣化の進行を予測して適切な修繕を行う予防保全型の管理への転換を図る。
- ・ 計画的、効率的管理の推進による更新時期の平準化とコスト最小化を図る。
- ・ 学識経験者等から意見聴取を行い、長寿命化修繕計画をホームページ等で公表する。
- ・ 詳細点検結果に基づく橋梁の健全度把握及び損傷状況に応じて橋梁長寿命化修繕計画を見直す。

## 5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期

【 様式 1 - 2 】 による。

## 6. 長寿命化修繕計画による効果

今後 60 年の修繕・架替え事業費（予防保全型、大規模補修・更新型）を試算した結果、予防保全型の累計は約 55 億円、大規模補修・更新型の累計は約 120 億円となり、予防保全型の維持修繕を実施することにより約 65 億円（約 55%）のコスト削減効果が期待できる。

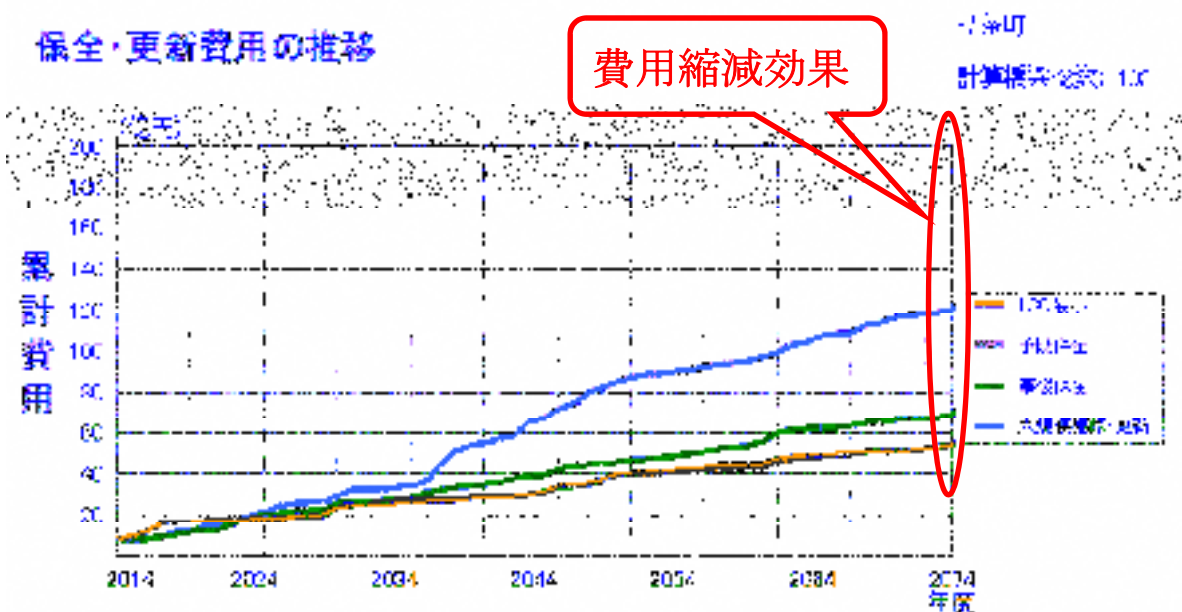


図-2 保全・更新費用の推移（累計費用）

## 7. 計画策定担当部署及び意見聴取した学識経験者等の専門的な知識を有する者

### 1) 計画策定担当部署

北海道 標茶町 建設課

TEL : 015-485-2111

### 2) 意見を聴取した学識経験者等の専門的な知識を有する者

北海学園大学 工学部 社会環境工学科

教授 杉本 博之